

平成30年度“超”を目指す軸受技術研究会報告

“超”を目指す軸受技術研究会（会員提案，18年度，主査 平山朋子）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っていろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数29名，平均出席者数は22名程度で，同志社大学（京都）を開催場所とし，3回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第55回研究会（平成30年6月9日 於：同志社大学）①海外廉価小型玉軸受の耐久性評価（東京理科大学 野口昭治），②転がり軸受の極微量潤滑技術の研究（(株)ジェイテクト 松山博樹，山川和芳，谷本清，ストイメノフボイコ，間野洋嗣），③EHD接触における膜厚と破断率の同時測定—スクイズ膜の測定（日本精工(株) 前田成志，丸山泰右，横浜国立大学 中野健）．

第56回研究会（平成30年10月13日 於：同志社大学）①水素誘起転がり疲れの発生条件と水素の起源（九州大学 田中宏昌，杉村丈一），②変形したゴムの粘弾性特性と振動現象の安定性に関する研究（パナソニック(株) 庄山直芳），③再生可能エネルギーを利用した環境技術と普及への課題（(一社)持続可能な安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会 遠藤聡，菅井雄磨，相澤直信，本村幹男，福井常雄，前田圭一郎，小野寿光）．

第57回研究会（平成30年12月22日 於：同志社大学）①油不足条件でのテクスチャ表面の利用（九州大学 八木和行），②軸方向スロット絞りを有する静圧ジャーナル気体軸受の特性（近畿大学 伊勢智彦，豊橋技術科学大学 長尾康平，松原真己，河村庄造，スターライト工業 絹川智哉），③グリース潤滑における摩擦面に増ちょう剤の付着/堆積を伴うグリース膜形成のメカニズム（同志社大学 小宮広志，下司佑馬，八百谷昇，平山朋子，松岡敬，坂本英俊），④流体潤滑すきま内流れ場についてのある無用なお話（元京都大学，大阪電気通信大学 矢部寛），⑤境界潤滑現象の更なる理解に向けた試みと展望（同志社大学 平山朋子）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3回の研究会の開催を予定している．

URL: <http://www.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>